

平面計画上の特徴



公共施設の整備

- ・新しい地域における学校施設の整備を、その他の公共施設の整備と併せて実施
- ・地域のニーズを踏まえ、小学校を中心に、高齢者から乳幼児まで、様々な年代が利用する施設を複合化
- ・小学校の特別教室や体育館の地域開放など、小学校の整備が、地域の社会教育施設や社会体育施設の整備に近い意味を持つ



子育て世代・共働き世代が増加する地域の実情に応じた施設を整備  
(左：子育て支援センター、右：学童保育室)



デイサービスでは小学校の給食を提供 学校時間外に体育館を地域に開放

- ➔ 新しい地域における学校施設の整備を、その他の施設と併せて行うことで、多世代が集う地域の交流施設とした
- ・各施設を単体で整備するよりも、財政的な負担が軽減した

委員の意見より

- ・当小学校区では、住宅地開発が進行するニュータウン（都心のベッドタウン的位置づけの強い住宅地）の中の学校であり、今後も児童数増加が見込まれる地域とのこと。コミュニティができていく過程において、小学校を拠点として多世代多層の住民が利用できる複合施設（拠点）を整備することは理解しやすく、意義も大きいと考えられる。

複合化施設としての留意点

- <事故防止>
  - ・公民館等への来館手段に、車や自転車を利用する人もいることから、児童と車等が接触しないように動線を配慮した・校内で走っている児童と高齢者等が衝突しないように、注意が必要な場所には一時停止の表示等をしている
- <防犯>
  - ・児童と地域の出入口は別であり、児童が使用する校門は登下校時以外は閉鎖。地域の出入口では担当職員が受付を行っている。
  - ・学校時間外に人が小学校の普通教室等へ入らないように、学校時間外は階段室の扉を閉鎖し、2階以上へ上がれないようにしている
- <自然な交流>
  - ・学校や各施設の活動の様子が目に入るような施設となっており、公民館と小学校の間の中庭では、児童と地域の交流も見られる



衝突しやすい地点に設置された一時停止の表示



地域利用者の入口には受付を設けている

複合化の実績を活用

- ・美南小学校が整備される10年ほど前に、同市内の既存市街地にある吉川小学校が、公民館・高齢者施設・学童保育を併設した複合化施設として整備・運営してきた実績があった
- ・美南小は、吉川小の経験を活かして計画・運営している。